

行政視察報告書

参加議員	里村誠悦、小倉尚裕、木戸喜美男、館山善也、木村淳司
調査期間	令和6年1月31日（水）～令和6年2月1日（木）
調査先及び調査事項	①福岡県北九州市 基地港湾について ②熊本県八代市 クルーズ船及びクルーズ船を活用した観光について

視察概要	
■ 調査先①	福岡県北九州市
■ 調査事項	基地港湾について
■ 調査内容	
1 調査日	令和6年1月31日（水）
2 調査目的	北九州市における基地港湾整備事業について調査し、本市における港湾を活かした産業振興施策などの参考とする。
3 対応者	北九州市港湾空港局 エネルギー産業拠点化推進室長 林 秀樹 北九州市港湾空港局 エネルギー産業拠点化推進課長 白井 伸弥
4 調査事項の説明	
(1) 説明概要	
①基地港湾とは	「海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾」のことをいい、洋上風力発電設備の設置及び維持管理に利用される港湾のこと
②基地港湾整備の目的	風力発電関連産業の総合拠点形成 →港を活性化して市内経済に貢献すること →風力発電を建設することが目的ではなく、経済活性化の手段として風力発電をターゲットとした
③基地港湾整備事業の概要	港内のしゅんせつ →大型のSEP船と呼ばれる作業船が入港可能となるように岸壁を一度壊し、再度整備風車部材の保管・組立が可能となるよう岸壁の地耐力強

化工事

→通常港湾岸壁の地耐力は2～3トン/㎡であるが、基地港湾は5～35トン/㎡の地耐力が必要

特に風車の組立が実施されるプレアッセンブリラインは地耐力が必要

④基地港湾整備事業に要した費用

整備費は総計145億円

国直轄の港湾整備事業：125億円（うち45%が地元自治体負担）、
背後用地整備：16億円（市単独事業）、後背地に洋上風力国産企業を誘致

(2) 主な質疑応答

問 基地港湾に至るまでにはどんな経緯があったか。

答 北九州市は明治時代から港湾部に製鉄など製造業が発展してきた。一方、産業構造は常に変化しているため、港湾を活用した新しい産業づくりとして、風力発電関連産業の総合拠点形成を目指した。

問 関連産業の貼り付けのために、どのような取組を実施したか。

答 風力発電実証研究や産業集積につながる企画の募集、響灘地区（港湾区域内）への洋上風力発電事業を公募などを実施。近年は、Global Offshore Wind Summit Japan 2023を開催するなど、世界のサプライヤーに向けたセールスを実施し、プレゼンスの向上を図っている。

問 今後の取組の課題は。

答 港湾を使用する継続的案件の確保。現在、響灘地区と唐津沖の案件2件であり、その後の案件を確保する必要がある。

問 現時点で、事業が市にもたらしたメリットについて。

答 関連産業企業の進出や、全国の洋上風力建設にあたって地元企業が部材製造に参入したこと（サプライチェーンの形成）、作業船の母港となることによる固定資産税の増加。

問 風車立地市町村など、周辺自治体との調整について

答 今の所はそこまで案件が進んでいないので、特に課題は生じていない。

問 関連する人材の育成に関する取組について。

答 地元小・中・高校での普及啓発活動や、北九州市立大学における専門講座が開講されている。

しかし、メンテナンスなどに関する現場技術者としての専門的な育成

となると、各企業の企業秘密もあるため、市としてトレーニングセンターを設置するなどの施策はなじまないと考えている。

問 風車のメーカーは外国企業と聞いているが。

答 国産メーカーが撤退してしまっているのは事実で、現在ヴェスタス、GE、シーメンスが基本である。だからこそ、サプライチェーンの中に北九州の企業の参入が必要であり、様々な施策を実施している。なお、響灘沖の風車はヴェスタス製であり、中国製ではない。

問 青森港は北九州港と違い、現時点で製造業の拠点が集積しているわけではないが、どのような港湾活用が考えられるか。

答 物流の拠点や保守管理の拠点としての活用が考えられる。

5 総括

青森港は重要港湾ですが、コンテナターミナルやクレーンなどの物流施設がない。同じく県内で重要港湾になっている八戸港やむつ小川原港には、クレーンがある。

人口減少下では地産外商も必要である。その時、船という強力な物流手段が使えるかで、地域の所得はガラリと変わってくると考える。説明していただいた北九州市の担当者の方々から「港湾を活用し、街を活気づけるのは我々市役所の使命」という強い思いを感じた。

青森港は県の管轄ですが、市を挙げての熱がまず必要と考える。

視 察 概 要

■ 調査先② 熊本県八代市

■ 調査事項 クルーズ船及びクルーズ船を活用した観光について

■ 調査内容

1 調査日

令和6年2月1日（木）

2 調査目的

八代市におけるクルーズ船寄港の取組について調査し、本市における港湾を生かした産業振興施策などの参考とする。

3 対応者

八代市議会事務局 局長 宮川武晴

八代市議会経済交流部 観光・クルーズ振興課 課長 高田 剛志

八代市議会経済交流部 観光・クルーズ振興課 係長 津田 勇一

八代市議会経済交流部 観光・クルーズ振興課 審議員 川元 民子

他

4 調査事項の説明

(1) 事業概要

①クルーズ船寄港対応

- ・クルーズ船受入対応関係
- ・寄港地おもてなしイベントの実施
- ・クルーズ船寄港歓迎セレモニー
- ・観光地における安全対策等

②利便性の向上

- ・通訳・ガイド手配・案内人配置（観光案内の充実）
- ・観光案内所設置（くまもんポート八代内）
- ・2次交通の調整（シャトルバス、タクシー等）

③観光コンテンツの充実

- ・観光コンテンツの掘り起こし・再構築

④ポストコロナを意識した歓迎機運の醸成

- ・「ようこそスマイル隊」、「きびっと隊」活動及び啓発事業
- ・八代・県南地域ファムツアー（現地視察）の実施

(2) クルーズ船寄港実績

平成29年67隻が最大で令和2年、令和3年はコロナ過にてゼロ隻、令和4年が4隻、令和5年が15隻の実績

(3) 今後の誘致活動

- ①八代港ならではの寄港地観光ツアーの造成
- ②船社や旅行社を招聘したファムツアー（現地視察）の実績

(4) 誘致活動に関する課題（受入れ上の課題）

- ①市内観光施設のオーバーツーリズム対策
- ②地域経済への波及効果拡大への取組
- ③地元観光事業者等の自発的な取組みへの誘導

(5) 国内への広報活動と国内からの集客（クルーズ関係以外）

- ①くまモンポートでイベントを実施する主催者に対する補助
- ②活性化協議会による自主イベントの実施（令和4年度来園者数約12万人）

【イベント実施例】

- ・火の国うたまつり
- ・くまモンポート八代プロジェクションマッピング

③小売店舗の出店

- ・くまモンポート内小売店（テナント）8店舗のうち、全てが県内事業者、7店舗が市内事業者

④地域との連携

- ・くまモンポート内での地元事業者による物産展等の開催
- ・シャトルバスによる乗船客・クルーの中心市街地や温泉地への周遊

5 総括

八代港は同じ九州地域に鹿児島港100回、長崎港183回、博多港229回など寄港数の多い港がある中で同規模の青森港同様に誘致活動に力を入れている発展途上の港とと思っていましたが、施設の規模や充実度、市民への開放性や利便性は、青森港より遥かに充実していました。ロイヤルカリビアン船会社の共同出資もあり港の整備に加え路面店の充実、くまモンを中心とした日本庭園、駐車場もサークル型と公共施設より民間の遊び心のある充実した施設になっておりました。

今後の青森港発展として参考になるデザイン性のある施設でした。1週間後のTV（出川哲郎の充電の旅）で今回訪問したくまモンポートが放送され、日頃の充実した市民の憩いの場であると確信しました。